

# 京都市市民活動総合センター

## 平成22年度事業報告

指定管理期間が最終年（5年目）となる今年度は、公設市民営のセンターを具現化すべく、アソシエイト制度の推進やコーディネート事業の充実など、これまでの実績を生かしつつ、「幅」を持って展開をすることができた。

アソシエイト制度においては、アソシエイトチームがセンター事業の枠を越え、自主的に市民向けの事業（サロン）に取り組むなどの広がりを見ることができた。また、コーディネート事業では、公益を目的とした学生団体と地縁組織をコーディネートし、地域の子どもたちを巻き込んだ地蔵盆を展開するなど、京都らしい事業に取り組むこともできた。

これらの事業を通じてNPOだけでなく、広く公益を目的とした団体（学生団体、地縁組織など）とのつながりも生まれ、市民活動の支援拠点としての機能の強化が図れたと考える。

一方で、事業の広がりが見えつつも、一昨年度に比べ指定管理料の減少などもあり、より効果・効率的な運営が求められるのも事実である。事業においては、本年度ボランティア・市民活動フェスタを見直した。本事業は、これまで事業費の1割以上を割き、福祉ボランティアセンターと共催で事業を展開し、多くの皆さまに市民活動きっかけを提供してきた。しかし、時代やニーズの変化による事業見直しの申し入れにも関わらず進展が見られないため、本年度は単独で開催し、事業費を大幅に削減することができた。一方で、開催にあたり地域の地縁組織や企業、寺社などの関係を構築することもでき、次年度に向けた新たな成果の萌芽を見出すことができた。今後は何をもって成果とするのかを定義する必要がある。公設市民営を標榜するセンターとして、これらを市民活動団体やアソシエイトと共に考え、問いながら実践していくことが次年度以降の課題である。

以下、事業カテゴリー毎の成果と課題について記述する。各事業の成果等については、別紙をご参照ください。

### **1) 情報収集・発信事業**

- 情報収集提供事業については、WEBシステムをリニューアルしたことで、これまでの紙媒体（チラシなど）以外での情報収集に取り組むことができた。

しかし、導入初年でもあり多数の問合せ・相談をうけることとなった。但し、将来的には効率化と質・量の両方を図る礎を築くことができた。一方で、情報を提供する側の固定化も目立ち始め、今後は多様な団体からの情報を収集し、発信することが課題である。

- ・チラシ設置数：3,683件（115件減）
- ・ホームページアクセス数：211,235件（6,943件増）
- ・メールマガジン登録数：2,438件（132件増）
- ・インフォメーションサービス登録団体数：860団体（94件増）

○WEBシステムのリニューアルにより、インフォメーションサービス登録団体毎に簡易版ホームページ（団体マイページ）の無料提供を実施。それと関連し、センターへの情報提供をホームページ上で行えるシステムを導入し、作業の効率化を図った。

○機関紙「ほっとポット」についてはアソシエイトを中心に運営。機関紙の編集・発行だけでなく、配布先の新規開拓や専用WEBの作成、また、一般市民を対象とした交流事業を実施（2回）し、事業の広がりをみることができた。

- ・機関紙「ほっとポット」配布先：140か所（67か所増）

## **2) 相談**

○新聞等でセンターが掲載されることでセンターの認知度が高まり、一般市民の方からの問合せ・相談が増加した。また、新WEBシステムの導入に際してシステムの質問を契機に情報発信に関することやマネジメントに関する相談に発展するなど、全体的な相談対応が増えた。今後は、講座やWEB等で情報提供を行うことで効率化を図りたい。

- ・相談件数：2,703件（1,263件増）
- ・対応件数：34,820件（2,324件減）

## **3) エンパワー&インキュベーション**

○パソコン及び印刷機の利用が昨年度に比べて増加している。特に、印刷機については、利用者の声からノートPCを貸し出し、データからそのまま印刷できるサービスを実施した。

- ・パソコン利用件数：2,938件（326件増）
- ・コピー機利用件数：2,765件（10件増）
- ・印刷機利用件数：1,876件（60件増）

○初歩講座については、相談等で受けた内容を精査し、講座内容に反映させた。また、講座終了後の相談を充実させることでボランティアコーディネ

ートやセンターアソシエイトへの参加などにつなげることができた。

・初歩講座参加者数：249名（3名増）

○実務講座及びマネジメント講座については求められる内容の個別性が高く、またアンケート等を勘案し、開催回数の見直しを図ると共に、新たな取り組みとして動画作成セミナーを伏見青少年活動センターと共催で開催した。

・実務講座：63名（43名減）

・マネジメント講座：85名（78名減）

#### **4) 交流・連携・協働・研究**

○ボランティア・市民活動フェスタを見直し、まちこと 2011 を開催。開催にあたり地元地縁組織や企業、また寺社、学生団体等との関係性を構築し、協力を得ることができた。

○昨年度に続き、京都教育大学附属小学校の総合学習へのスタッフの派遣などのコーディネートを実施した。

○西京区役所と連携した自治会会長向けの市民活動講座への講師派遣や伏見区役所と分野別センターと連携した伏見地域活性化プロジェクトのコーディネートを実施。

○景観・まちづくりセンターと共催し、「自治会活動パワーアップ講座」を開催。また、求めに応じて市民活動団体と地縁組織とのコーディネートを行った。

#### **5) その他**

○3月11日に発生した東日本大震災に際し、京都市災害ボランティアセンターとして、情報収集、一般市民及び市民活動団体、企業等からの相談対応、及び京都府災害ボランティアセンターと共同して、「京都災害ボランティア支援センター」の立ち上げを行った。